

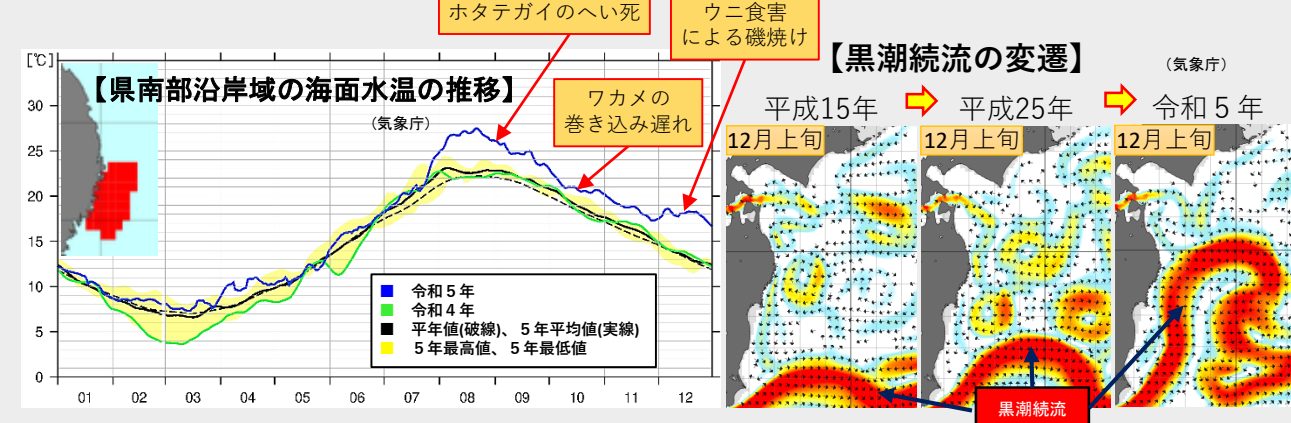
目指す姿（施策の基本方向）

本県の漁業者等の一人ひとりが、海洋環境の変化に適応した水産資源の管理や、漁場の適切かつ有効な活用などに意欲的に取り組むことにより、自らの生産性や所得の向上を図りながらこの不漁を克服し、将来に夢と希望を持って就業している。

本県漁業を取り巻く現状

1 海洋環境の変化

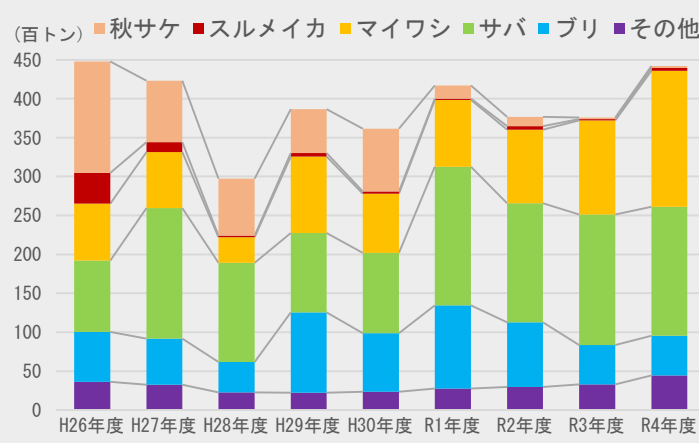
【令和5年秋季の海面水温が記録的に高くなった要因】（気象庁発表(R5.12.1)）  
 ・日本周辺を通過する台風が少なく、湧昇等による海面水温の低下が抑制されたこと。  
 ・黒潮続流が本県沖まで北上し、海水温が表層から下層に至る広範囲で高温化したこと。



2 海洋環境の変化が本県の水産業に与えた影響

項目	県内の状況	影響	取組項目
漁獲	・サケ、サンマ、スルメイカ等の本県の <b>主要魚種の来遊量が減少</b> ・イワシ、サバ、ブリ等の <b>暖海性種の来遊量が増加</b>	漁獲量の減少 漁獲量の増加	A C
養殖	・ホタテガイ、エゾイシカゲガイ： <b>成長不良、へい死</b> ・海藻：種苗の巻き込み時期の遅れ、 <b>生長期間の短縮</b> 、コンブ等のすそ枯れによる <b>品質低下</b> ・貝毒の出荷規制の長期化、 <b>病害虫の発生</b>	生産量の減少	F
磯焼け	・ウニが冬期でも活発に活動し、食害による <b>磯焼けが拡大</b> ・餌不足によるアワビ、ウニの <b>成長不良</b> や <b>品質低下</b> ・アイゴなど <b>海藻を食べる魚の分布域が拡大</b> しており、本県まで北上した場合、藻場が深刻なダメージを受ける可能性	藻場の減少 アワビ資源の減少 ウニ資源の増加	B D
種苗の確保	・ホタテガイ、エゾイシカゲガイ等： <b>天然採苗の不調</b> ・海藻：コンブ、ワカメ <b>母藻の早期流失</b> 、ワカメ種苗の <b>生育不良</b> ・ <b>アワビ種苗生産の不調</b> 、アユの採卵時期の遅れ	養殖・放流用種苗の調達が難航	E B
漁場環境	・黒潮続流由来の急潮等による <b>漁具・施設の被害</b>	漁獲量の減少・経営難	施設共済等

3 県内定置網の漁獲状況



4 県内漁業就業者、高齢化の状況

	H5	H10	H15	H20 ①	H25	H30 ②	②/①
漁業就業者数	15,141	12,443	10,472	9,948	6,289	6,327	63.6%
65歳以上構成比	16.0%	23.6%	31.9%	37.3%	35.6%	44.7%	-

**重要課題**  
 海洋環境の変化に適応した水産資源の持続的利用と養殖生産量の維持増大

具体的な取組（三つの柱と安定した基盤）

取組項目（三つの柱）	令和5年度に取り組んだ実績	実施主体	令和6年度当初予算（案） 単位：千円	
A サケ資源の早期回復・種苗放流体制の見直し	種卵確保の強化	種卵確保数 6,400万粒（うち、他県移入4,708万粒）/計画値 8,653万粒（計画比73%） 1/31時点	水振課、さけ・ます増協	・さけ資源緊急回復支援事業費（388,700） ・さけ、ます増殖緊急強化対策事業費(47,122)
	放流体制の見直し	大型で遊泳力の高い強靱な稚魚の生産、放流見込数5,500万尾/計画値 7,500万尾（計画比73%） 改良餌・種卵消毒用資材の導入支援 18.ふ化場	さけ・ます増協 水振課	
	回帰率向上に向けた技術革新・研究	強靱な稚魚生産に向けた餌の改良 アスタキサンチン添加 4g/尾以上の超大型稚魚放流を実施 26万尾	水技	
	ふ化場の有効利用	海面養殖用種苗の中間育成に係る採択性や事業実現可能性を検討 (R5.5~11月：久慈川、大槌川、甲子川、盛川の4件) 財産処分に係る国との調整：久慈川、甲子川の2件	沿海漁協、水振課 水振課	
B 藻根資源（アワビ）の回復	藻場の保全・再生	ソフト 藻場保全活動：ウニ移植・蓄養を沿海12漁協で実施 藻場の造成技術の実証試験：釜石湾、重茂漁協の2件 ハード ドローンを活用した藻場調査：久慈、田老、新おおつち、吉浜漁協の4漁協 藻場造成に着手済：摂持漁場、桑畑漁場、仲網漁場の3件	沿海漁協 水振課 漁港漁村課	・水産多面的機能発揮対策事業費（3,371） ・水産基盤整備調査費（78,400） ・水産環境整備事業費（260,000） ・漁村再生交付金事業費（915,400）
	資源解析に基づく適切な放流と漁獲	アワビ種苗放流：実績値516万個/計画値709万個（計画比73%） 12/31時点	沿海漁協	・栽培漁業推進事業費（328,788）
C マイワシ等の有効利用	増加魚種の有効利用に向けた新ビジネスモデルの構築	選定業者に業務委託：久慈市漁協、(有)秀吉、メフレ(株)、三陸とれたて市場の4件	水振課	・新たな水産資源利活用モデル開発事業費（9,780）
	増加魚種の特長・加工用原料への活用検討	増加している魚種の成分分析を実施：サワラの1種類	水技	
D ウニ資源の有効利用	漁港内の静穏域等を利用した新たなウニの蓄養・出荷による高付加価値化	ウニの蓄養・出荷の取組拡大：沿岸8市町村12漁協 「ウニの在庫管理マニュアル（仮称）」の作成（年度内完成予定）	沿岸市町村、沿海漁協、水技	・ゼロ予算
E 漁業	知事許可漁業の対象魚種の拡大	マイワシの試験操業データ蓄積：13隻	水産振興課	・ゼロ予算
	ヤリイカ等の安定資源造成に向けた産卵場等の計画的整備	試験礁の効果調査、適地調査：越喜来、普代村、広田湾漁協の3漁協 産卵場の調査・設計：大船渡地区1か所	漁港漁村課	・水産基盤整備調査費（再掲） ・水産環境整備事業費（再掲）
F 養殖業	新規漁業就業者の確保・育成	R5アカデミー研修生：6名 新規漁業就業者等の地域への定着支援 就業奨励金、住居確保支援ほか	水産アカデミー運営協議会 沿岸市町村	・いわて水産アカデミー運営支援事業費(3,355)
	サケ、マス類の海面養殖用種卵の供給体制構築	ギンザケ種卵：7業者に136万粒供給 サクラマス種卵：1業者に80万粒供給 県オリジナル種苗開発に向けた飼育試験：サクラマス	内水技	・さけ・ます海面養殖イノベーション推進事業費(4,071)
	サケ、マス類の海面養殖生産の拡大	R5漁業権切替により、実施地区が拡大：4地区⇒8地区	水振課	
	アサリ養殖の事業化	養殖試験を開始：三陸やまだ=6万個、新おおつち=3万個、越喜来=9万個生産 R5.5~6月開始 種苗生産委託試験を実施：宮古漁協=約2千個、栽培協会約10万個生産中 R5.11時点	沿海漁協、水技 水振課	・養殖業振興事業費(2,960) ・栽培漁業推進事業費(再掲)
	新技術の導入	コンブ早期養殖技術を開発 釜石湾で養殖試験 ワカメ半フリー種苗の普及：6漁協に56,840株を販売 県産ホタテ種苗の安定確保に向けた対策検討等 2回	水技 栽培協会 水振課、水技	・ゼロ予算 ・養殖業振興事業(再掲)

**【安定した基盤】漁業者の負託に応える経営基盤の立て直し**  
 1 漁協経営の安定化に向けた取組  
 資金繰りの改善のための金融支援、経営改善に向けた国事業の活用等の促進、販売事業強化の取組等  
 2 漁協間での事業連携等による事業管理費の縮減、収入増加策の展開  
 サケふ化放流体制の見直し（再掲）、サケ、マス類の海面養殖の推進等（再掲）